

National Clinical Database: Case Report Form 記入の手引き

J-EVT/ SHD

注意事項

このCase Report Form(以下、CRF)は、National Clinical Database(以下、NCD)への症例登録にあたっての補助資料です。各項目の定義については本CRFをご参照ください。

本CRFはあくまでも補助資料のため、最終的な症例登録はWeb経由で行ってください。

本CRFをNCDに送付いただいても、症例登録とみなすことはできません。あらかじめご了承ください。

本CRFは、以下のような場合にご活用ください。

例) 本CRFの記入は担当医が行うが、Webへの入力には他の診療科スタッフに依頼する場合 など

記入に際してのルール

記入ルールは、以下の通りです。なお、○と□のアイコンについては、Web上も同じルールです。

○: 択一の項目です。該当するものを1つだけお選びください。

□: 複数選択の項目です。該当するもの全てをお選びください。

下線: テキスト文章の記入欄です。

項目名の網掛けが灰色部分: 必須項目です。

お問い合わせ

ご不明な点、ご質問等がありましたら、NCDホームページお問い合わせフォームよりお問い合わせください。

(URL <https://www.ncd.or.jp/contact/>)

お問い合わせの前にFAQもご参照ください。(URL <https://www.ncd.or.jp/faq/>)

※メールでの一元管理を行っていますので、お電話でのお問い合わせは承っておりません。何卒ご了承ください。

また、お問い合わせの内容によっては、回答までにお時間を要する場合があります。

J-EVT/SHD項目定義

併発疾患											
糖尿病	以下のうちの1つを満たす。 (ア) 空腹時126mg/dL 以上 もしくは随時血糖200mg/dL 以上 (イ) HbA1c 6.5% 以上 (ウ) 経口血糖降下薬、インスリンやインクレチン製剤により治療中										
高血圧	日本高血圧学会ガイドライン2009年版:以下のうちの1つを満たす。 (ア)SBP140mmHg以上 (イ)DBP90mmHg以上 (ウ)降圧薬により治療中										
脂質異常症	脂質異常症:スクリーニングのための診断基準(空腹時採血※) いずれかを満たす(ただし、境界域高LDLコレステロール血症は条件から除外した) <table><tr><td>LDLコレステロール</td><td>140mg/dL以上</td><td>高LDLコレステロール血症</td></tr><tr><td>HDLコレステロール</td><td>40mg/dL未満</td><td>低HDLコレステロール血症</td></tr><tr><td>トリグリセライド</td><td>150mg/dL以上</td><td>高トリグリセライド血症</td></tr></table> LDLコレステロールはFriedewald(TC－HDL－C－TG/5)の式で計算する(TGが400mg/dL未満の場合)。 TGが400mg/dL以上や食後採血の場合にはnon HDL－C(TC－HDL－C)を使用し、その基準はLDL－C＋30 mg/dLとする。 ※10-12時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし、水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。 出典:一般社団法人日本動脈硬化学会。第3章 脂質異常症の診断基準。動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2012年版。2012; 33-36。		LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症	HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症	トリグリセライド	150mg/dL以上	高トリグリセライド血症
LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症									
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症									
トリグリセライド	150mg/dL以上	高トリグリセライド血症									
喫煙	過去1年以内に喫煙歴があるものすべて。										
腎不全	日本腎臓病学会CKD診療ガイド2009年版:以下のうちの1つを満たす。 (ア)蛋白尿の存在 (イ)S－Cr1.3mg/dl以上 (ウ)eGFR60ml/min/1.73m2以下 (eGFR＝194×Age－0.23×Cre－0.1154[女性×0.742])										
維持透析	人工透析、腹膜透析施行中のもの。										
冠動脈疾患	心筋梗塞の既往がある、もしくは冠動脈の狭窄を認め、CABGなどの再灌流療法を受けた既往がある(ARIC基準)										
脳血管疾患	脳梗塞か脳内出血/くも膜下出血の既往がある(運動麻痺や構音障害などの神経症状があり、画像診断でその責任病巣が確認されたものとし、TIAは含まない。)										

周術期合併症	
院内死亡	入院中の死亡すべて。長期入院患者の場合、施行より30日以降の死亡は含まない。
輸血を必要とする出血性合併症	術中か術後の出血により輸血あるいは止血術（手法は不問）を必要とした場合。長期入院患者の場合、施行より30日以降のイベントは含まない。
末梢塞栓	インターベンションを施行した部位より末梢に塞栓症状が入院中に出現したもの。長期入院患者の場合、EVT/SHD施行より30日以降のイベントは含まない。
血管破裂	インターベンションを施行した部位からの出血や造影剤の漏出が認められたもの。長期入院患者の場合、施行より30日以降のイベントは含まない。
急性閉塞	手技中にもしくは術後30日以内の治療完全、もしくはそれに近い血管部閉塞を認め、そのために治療手技 [bail-out stenting 等] を必要としたもの。長期入院患者の場合、施行より30日以降のイベントは含まない。解離による閉塞含まれる。
造影剤腎症	造影剤投与後48時間以内に生じた血清クレアチニンの25% 以上 またはCr 0.5mg/dl以上の上昇を認めたもの。
心筋梗塞	持続する心筋虚血症状に、心筋マーカーの上昇を伴ったもの。心筋マーカーの上昇はCKやCK-MBの上昇[正常値の2倍以上]、もしくはトロポニン値の上昇[99パーセンタイル値以上]とする。長期入院患者の場合、施行より30日以降のイベントは含まない。
脳梗塞	新たな Neurological Deficit（局所神経症状）があり、画像所見により新規梗塞巣が確認された場合 長期入院患者の場合、施行より30日以降のイベントは含まない。
大切断	治療患肢の足関節以上の切断 長期入院患者の場合、施行より30日以降のイベントは含まない。
治療部位に対する外科的再治療	治療対象血管の再発による外科的再治療 長期入院患者の場合、施行より30日以降のイベントは含まない。
治療部位に対する血管内再治療	治療対象血管の再発による血管内再治療 長期入院患者の場合、施行より30日以降のイベントは含まない。
今回入院に至った診断名	
間欠性跛行等	Rutherford分類 1-3 か Fontaine分類Ⅱ群に相当 例) トレッドミル運動負荷試験で運動後の足関節圧が20mmHg以上（絶対値で50mmHg以下）に下降、絶対値で50mmHg以下に下降 または 運動負荷終了不能.
重症虚血肢	Rutherford分類 4-6 か Fontaine分類Ⅲ-Ⅳ群に相当 例) 重症の慢性虚血に起因する下肢の安静時疼痛や潰瘍ならびに壊死など例) 足関節圧が安静時で40mmHg 以下.
急性下肢虚血	下肢灌流の急激な低下により下肢の生存が脅かされる状態（TASC II Acute Limb Ischemiaに相当）

NationalClinicalDatabase
J-EVT/SHD

患者情報

院内管理コード (施設患者番号)	○施設方針により記入しない _____	半角英字と半角数字で20桁まで。
患者性別	○男性 ○女性	
患者生年月日	西暦 _____年____月____日	5歳以上120歳以下。 月まで記入必須。
年齢	【患者生年月日】と【EVT/SHD施行日】から年齢が自動計算される。	

手術・インターベンション情報 術前情報

今回入院に至った診断名	J-EVT ☐ 下肢末梢動脈疾患 ☐ 下肢以外の末梢動脈疾患 ☐ その他末梢血管疾患 ☐ 動脈瘤 J-SHD ☐ 弁膜症 ☐ 肺高血圧 ☐ 心筋症 ☐ 先天性心疾患 ☐ その他	J-EVT項目を入力した場合は「手技情報Ⅱ」を、J-SHD「弁膜症」、「心筋疾患」「肺高血圧」、「先天性心疾患」、「その他」を登録した場合は「手技情報Ⅲ」を記入。
今回入院に至った診断名詳細	【今回入院に至った診断名】で「下肢末梢動脈疾患」を選択した場合に記入する。 ☐ 末梢動脈疾患（無症状） ☐ 末梢動脈疾患（間歇性跛行） ☐ 末梢動脈疾患（重症下肢虚血：安静時痛） ☐ 末梢動脈疾患（重症下肢虚血：潰瘍・壊疽） ☐ 急性下肢虚血	無症状：Rutherford分類 0（Fontaine分類Ⅰ群に相当） 間歇性跛行：Rutherford分類 1-3 か（Fontaine分類Ⅱ群に相当） 重症下肢虚血（安静時疼痛・潰瘍・壊疽）：重症の慢性虚血に起因する Rutherford分類 4-6 か Fontaine分類Ⅲ-Ⅳ群に相当
急性下肢虚血 Rutherford分類	【今回入院に至った診断名詳細】で「急性下肢虚血」を選択した場合に記入する。 ☐ カテゴリーⅠ：救肢可能 ☐ カテゴリーⅡa：危機的（境界型） ☐ カテゴリーⅡb：危機的（即時型） ☐ カテゴリーⅢ：不可逆性	カテゴリーⅠ：即時性なし。感覚消失なし。筋力低下なし。動静脈ともにドブラ音聴取可能 カテゴリーⅡa：直ちに治療すれば救肢可能。感覚消失軽度（足趾のみ）またはなし。筋力低下なし。動脈ドブラ音（しばしば）聴取不能。静脈ドブラ音聴取可能 カテゴリーⅡb：即時の血行再建により救肢可能。足趾以外にも安静疼痛を伴う。筋力低下軽度～中等度。動脈ドブラ音（通常は）聴取不能。静脈ドブラ音聴取可能 カテゴリーⅢ：広範囲な組織欠損または恒久的な神経障害が不可避。感覚消失重度。筋力低下重度～麻痺（硬直）。動静脈ともにドブラ音聴取不能
入院時のADL	【今回入院に至った診断名】で「下肢末梢動脈疾患」を選択した場合に記入する。 ☐ 歩行 ☐ 車いす ☐ 寝たきり	
NYHA	【今回入院に至った診断名】で「弁膜症」「肺高血圧」「心筋症」「先天性心疾患」が選択された場合に記入する。 ☐ Ⅰ ☐ Ⅱ ☐ Ⅲ ☐ Ⅳ	NYHA（New York Heart Association）分類 Ⅰ度：心疾患はあるが身体活動に制限はない。 Ⅱ度：軽度の身体活動の制限がある。 Ⅲ度：高度な身体活動の制限がある。 Ⅳ度：心疾患のためいかなる身体活動も制限される。
リスク及び併発疾患	☐ 糖尿病 ☐ 高血圧 ☐ COPD（慢性呼吸不全） ☐ 脂質異常症 ☐ 喫煙 ☐ 腎不全 ☐ 維持透析 ☐ 冠動脈疾患 ☐ 脳血管疾患 ☐ 併発疾患なし	表紙J-EVT/SHD項目定義「併発疾患」参照。

術前 Hb	【今回入院に至った診断名】でJ-SHDの選択肢のみを選択した場合、非必須 [] g/dl	小数点第一位まで記入。 下限:1.0、上限:24.0 術前30日前までの期間で最も新しい数値 本登録におきましては EVT/SHD 術前に Hgb と Cr 計測がなされていないというケースは想定しておりません。 もしも例外的にそのようなことがございましたら各検査値の最大値 (Hgb は 24.0、Cr は20.0)を記入。
術前 Cr	[] mg/dl	小数点第一位まで記入。 下限:0.1、上限:20.0 術前30日前までの期間で最も新しい数値 本登録におきましては EVT/SHD 術前に Hgb と Cr 計測がなされていないというケースは想定しておりません。 もしも例外的にそのようなことがございましたら各検査値の最大値 (Hgb は 24.0、Cr は 20.0)を記入。 血液透析や腹膜透析を実施されている患者さんの場合は【リスク及び併発疾患】で「維持透析」をチェック
術前抗血小板薬・抗凝固薬の種類	☐ アスピリン ☐ P2Y12阻害薬(含チエノピリジン) ☐ シロスタゾール ☐ その他の抗血小板薬 ☐ ワルファリン ☐ DOAC ☐ 内服せず	

手術・インターベンション情報 術中情報

EVT/SHD施行日	西暦 _____年____月____日	
第一術者	医籍番号_____	
指導的介助者	☐ 有 ☐ 無 医籍番号_____	
EVT/SHDのステータス	☐ 待機的 ☐ 緊急	
透視時間	☐ 有 [] 分 ☐ 不明	時間は整数3桁。10分の場合は「010」として記入。
造影剤使用量	[] ml	記入範囲は0-999。
周術期合併症	☐ 無 ☐ 有	表紙J-EVT/SHD項目定義「周術期合併症」参照。
周術期合併症 詳細	【周術期合併症】で「有」を選択した場合に記入する。 ☐死亡 ☐輸血を必要とする出血性合併症 ☐輸血・止血術を必要とする出血性合併症または脳出血 ☐手技合併症に対する緊急外科手術 ☐末梢塞栓 ☐血管破裂 ☐急性閉塞 ☐造影剤腎症 ☐輸血を必要とする穿刺部合併症 ☐補助循環装置を要した心原性ショック ☐心筋梗塞 ☐脳梗塞 ☐大切断 ☐コンパートメント症候群 ☐減張切開 ☐腸管切除 ☐新規血液透析導入(一時的透析を含む) ☐治療部位に対する外科的再治療 ☐治療部位に対するカテーテルでの再治療 ☐その他(_____)	表紙J-EVT/SHD項目定義「周術期合併症」参照。 「その他」の文字数は20文字まで

施行治療手技 (複数記載可、最低1個記載)	J-EVT 下肢末梢動脈疾患 ☐ EVT(大動脈・腸骨動脈) ☐ EVT(大腿・膝窩動脈) ☐ EVT(膝下動脈) ☐ EVT(足部動脈) 下肢以外末梢動脈疾患 ☐ PTRA(腎動脈) ☐ CAS(頸動脈) ☐ その他(腕頭・鎖骨下動脈、腹腔・腸間膜動脈等) () その他末梢血管疾患 ☐ PTA(シヤント) ☐ 静脈疾患 動脈瘤 ☐ EVT(腹腔動脈) ☐ EVT(脾動脈) ☐ EVT(腎動脈) ☐ EVT(脾アーケード) ☐ EVT(上腸間膜動脈) ☐ EVT(腸骨動脈瘤) ☐ EVT(その他の動脈瘤)	☐ その他(腕頭・鎖骨下動脈、腹腔・腸間膜動脈等)の文字数は20文字まで
	J-SHD 弁膜疾患 ☐ PTMC(僧帽弁) ☐ BAV(バルーン大動脈弁形成術) ☐ PTPV(バルーン肺動脈弁形成術) ☐ M-TEER 肺高血圧 ☐ BPA(バルーン肺動脈形成術) 肥大型心筋症・肺高血圧 ☐ PTSMA 先天性心疾患 ☐ ASD 閉鎖術 ☐ PFO 閉鎖術 ☐ PDA 閉鎖術 その他 ☐ LAA閉鎖 ☐ PVL閉鎖術	
手術時間	[]分	入室から退室までの時間を記入。 整数値で記入範囲は10-999。

手術・インターベンション情報 術後情報

退院時転帰	☐ 死亡 ☐ 自宅退院 ☐ 転科(同疾患追加治療目的) ☐ 転科(それ以外) ☐ 急性期病院へ転院 (同疾患の追加治療目的) ☐ 急性期病院へ転院 (それ以外) ☐ 慢性期病院への転院 ☐ その他	周術期合併症に関わらず原疾患による院内予後(術後の経過日数を問わない) 当該入院の転帰を記入(1つの入院で複数回の手技を実施した場合は全ての手技について同一の転帰を入力していただくことになります。)
入院期間	☐ 日帰り ☐ 3日以内 ☐ 7日以内 ☐ 14日以内 ☐ 30日以内 ☐ 31日以上	循環器内科での入院期間を選択する。
EVT/SHD施行日から術後30日	【EVT/SHD施行日】から術後30日経過した日付が自動計算される	【EVT/SHD施行日】から術後30日以内は、ステータス変更不可。 ただし、【術後30日 患者転帰】で「死亡」を選択された場合、術後30日以内でもステータス変更可能。
術後30日 患者転帰	【退院時転帰】で「死亡」以外を選択した場合に記入する。 【入院期間】で「31日以上」を選択した場合、「生存」が自動選択され、「死亡」「不明」は選択不可。 ☐ 生存 ☐ 死亡 ☐ 不明	生存:術後30日時点で生存 死亡:術後30日以内に死亡 不明:術後30日時点の生死不明 【EVT/SHD施行日】から術後30日以内は、「生存」「不明」の選択不可。 ただし、「死亡」は術後30日以内でも選択可能。

術後30日 再入院	【術後30日 患者転帰】で「生存」かつ【今回入院に至った診断名】でJ-SHDのいずれかの以下診断名を選択した場合に記入する。 ☐ 弁膜疾患 ☐ 肺高血圧 ☐ 心筋症 ☐ 先天性心疾患 ☐ その他 ☐ 継続入院中 ☐ 退院後再入院なし ☐ 再入院あり(原疾患追加治療目的) ☐ 再入院あり(それ以外)	
術後30日 血管転帰	【今回入院に至った診断名】でJ-EVTのいずれかの以下診断名を選択した場合に記入する。 ☐ 下肢末梢動脈疾患 ☐ 下肢以外の末梢動脈疾患 ☐ その他末梢血管疾患 ☐ 動脈瘤 ☐ バイパス ☐ EVT ☐ 血栓除去 [カテ・外科問わない] ☐ 血栓溶解療法 ☐ なし ☐ 不明	【EVT/SHD施行日】から術後30日以内は、ステータス変更不可。 ただし、【術後30日 患者転帰】で「死亡」を選択された場合、術後30日以内でもステータス変更可能。 複数選択可。 「なし」「不明」を選択した場合、択一選択。
術後30日 下肢予後	【今回入院に至った診断名】でJ-EVTのいずれかの以下診断名を選択した場合に記入する。 ☐ 下肢末梢動脈疾患 ☐ 下肢以外の末梢動脈疾患 ☐ その他末梢血管疾患 ☐ 動脈瘤 ☐ 大切断あり ☐ 大切断なし ☐ 不明	術後30日以内の膝下または膝上切断 【EVT/SHD施行日】から術後30日以内は、ステータス変更不可。 ただし、【術後30日 患者転帰】で「死亡」を選択された場合、術後30日以内でもステータス変更可能。

National Clinical Database
J-EVT/SHD (EVT)

手技情報(Ⅱ)

【施行治療手技】で「EVT(大動脈・腸骨動脈)」を選択した場合に右記を記入する。	大動脈・腸骨動脈病変 性状	☐ 狭窄 ☐ 閉塞
	大動脈・腸骨動脈病変 石灰化 透視にて病変部位の石灰化重症度を評価	☐ 石灰化 片側性 ☐ 石灰化 両側性 ☐ 石灰化無
	大動脈・腸骨動脈病変 イメージング	☐ 無 ☐ IVUS ☐ OCT/OFDI ☐ 血管内視鏡
	大動脈・腸骨動脈病変 成否 成功定義: 残存狭窄<30%未満及び血流低下を伴う血管解離なし	☐ 成功 ☐ 不成功
	【大動脈・腸骨動脈病変 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 大動脈・腸骨動脈病変 不成功理由	☐ ワイヤー不通過 ☐ デバイス不通過 ☐ 拡張不良 ☐ 手技中合併症 ☐ その他
	大動脈・腸骨動脈病変 使用機器 ハイブリッド:EVTと外科治療のハイブリッド	☐ バルーン ☐ ステント ☐ カバードステント ☐ ハイブリッド ☐ 機械的血栓吸引(末梢血管用血栓吸引 [Indigo]) ☐ 用手的血栓吸引(その他) () 20文字以内(非必須) ☐ その他 () 20文字以内
	【大動脈・腸骨動脈病変 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 大動脈・腸骨動脈病変 アプローチサイト	☐ 橈骨 ☐ 上腕 ☐ 対側鼠経 ☐ 同側鼠経 ☐ 遠位部浅大腿動脈 ☐ 膝窩動脈 ☐ 脛骨動脈 ☐ 足背動脈
【施行治療手技】で「EVT(大腿・膝窩動脈)」を選択した場合に右記を記入する。	大腿・膝窩動脈病変 性状	☐ 狭窄 ☐ 閉塞
	大腿・膝窩動脈病変 石灰化 透視にて病変部位の石灰化重症度を評価	☐ 石灰化 片側性 ☐ 石灰化 両側性 ☐ 石灰化無
	大腿・膝窩動脈病変 イメージング	☐ 無 ☐ IVUS ☐ OCT/OFDI ☐ 血管内視鏡
	大腿・膝窩動脈病変 成否 成功定義: 残存狭窄<30%未満及び血流低下を伴う血管解離なし	☐ 成功 ☐ 不成功
	【大腿・膝窩動脈病変 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 大腿・膝窩動脈病変 不成功理由	☐ ワイヤー不通過 ☐ デバイス不通過 ☐ 拡張不良 ☐ 手技中合併症 ☐ その他
	大腿・膝窩動脈病変 使用機器 ハイブリッド:EVTと外科治療のハイブリッド	☐ バルーン ☐ ステント ☐ 薬剤溶出ステント ☐ 薬剤塗布バルーン ☐ カバードステント ☐ ハイブリッド ☐ アテレクトミー(ジェットストリーム) ☐ ELCA ☐ 機械的血栓吸引(末梢血管用血栓吸引 [Indigo]) ☐ 用手的血栓吸引(その他) () 20文字以内(非必須) ☐ その他 () 20文字以内

	【大腿・膝窩動脈病変 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 大腿・膝窩動脈病変 アプローチサイト	☐ 橈骨 ☐ 上腕 ☐ 対側鼠経 ☐ 同側鼠経 ☐ 遠位部浅大腿動脈 ☐ 膝窩動脈 ☐ 脛骨動脈 ☐ 足背動脈
【施行治療手技】で「EVT(膝下動脈)」を選択した場合に右記を記入する。	膝下動脈病変 性状	☐ 狭窄 ☐ 閉塞
	膝下動脈病変 石灰化 透視にて病変部位の石灰化重症度を評価	☐ 石灰化 片側性 ☐ 石灰化 両側性 ☐ 石灰化無
	膝下動脈病変 イメージング	☐ 無 ☐ IVUS ☐ OCT/OFDI ☐ 血管内視鏡
	膝下動脈病変 成否 成功定義: 残存狭窄<30%未満及び血流低下を伴う血管解離なし	☐ 成功 ☐ 不成功
	【膝下動脈病変 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 膝下動脈病変 不成功理由	☐ ワイヤー不通過 ☐ デバイス不通過 ☐ 拡張不良 ☐ 手技中合併症 ☐ その他
	膝下動脈病変 使用機器	☐ バルーン ☐ 機械的血栓吸引(末梢血管用血栓吸引 [Indigo]) ☐ 用手的血栓吸引(その他) (_____) 20文字以内(非必須) ☐ その他(_____) 20文字以内
	【膝下動脈病変 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 膝下動脈病変 アプローチサイト	☐ 橈骨 ☐ 上腕 ☐ 対側鼠経 ☐ 同側鼠経 ☐ 遠位部浅大腿動脈 ☐ 膝窩動脈 ☐ 脛骨動脈 ☐ 足背動脈
【施行治療手技】で「EVT(足部動脈)」を選択した場合に右記を記入する。	足部動脈病変 性状	☐ 狭窄 ☐ 閉塞
	足部動脈病変 石灰化 透視にて病変部位の石灰化重症度を評価	☐ 石灰化 片側性 ☐ 石灰化 両側性 ☐ 石灰化無
	足部動脈病変 イメージング	☐ 無 ☐ IVUS ☐ OCT/OFDI ☐ 血管内視鏡
	足部動脈病変 成否 成功定義: 残存狭窄<30%未満及び血流低下を伴う血管解離なし	☐ 成功 ☐ 不成功
	【足部動脈病変 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 足部動脈病変 不成功理由	☐ ワイヤー不通過 ☐ デバイス不通過 ☐ 拡張不良 ☐ 手技中合併症 ☐ その他
	足部動脈病変 使用機器	☐ バルーン ☐ 機械的血栓吸引(末梢血管用血栓吸引 [Indigo]) ☐ 用手的血栓吸引(その他) (_____) 20文字以内(非必須) ☐ その他(_____) 20文字以内

	【足部動脈病変 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 足部動脈病変 アプローチサイト	☐ 橈骨 ☐ 上腕 ☐ 対側鼠経 ☐ 同側鼠経 ☐ 遠位部浅大腿動脈 ☐ 膝窩動脈 ☐ 脛骨動脈 ☐ 足背動脈
【施行治療手技】で「PTRA(腎動脈)」を選択した場合に右記を記入する。	腎動脈病変 適応	☐ 高血圧 ☐ 腎機能障害 ☐ 腹部大動脈瘤ステント関連後 ☐ 線維筋性異形成 ☐ その他() 20文字以内
	腎動脈病変 イメージング	☐ 無 ☐ IVUS ☐ OCT/OFDI ☐ 血管内視鏡
	腎動脈病変 成否 成功定義: 残存狭窄<30%未満及び血流低下を伴う血管解離なし	☐ 成功 ☐ 不成功
	【腎動脈 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 腎動脈病変 不成功理由	☐ ワイヤー不通過 ☐ デバイス不通過 ☐ 拡張不良 ☐ 手技中合併症 ☐ その他
	【腎動脈 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 腎動脈病変 使用機器	☐ バルーン ☐ ステント ☐ その他() 20文字以内
【施行治療手技】で「CAS(頸動脈)」を選択した場合に右記を記入する。	頸動脈病変 症状	☐ 症候性 ☐ 無症候性
	頸動脈病変 イメージング	☐ 無 ☐ IVUS ☐ OCT/OFDI ☐ 血管内視鏡
	頸動脈病変 成否 成功定義: 残存狭窄<30%未満及び血流低下を伴う血管解離なし	☐ 成功 ☐ 不成功
	【頸動脈 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 頸動脈病変 不成功理由	☐ ワイヤー不通過 ☐ デバイス不通過 ☐ 拡張不良 ☐ 手技中合併症 ☐ その他
	【頸動脈 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 頸動脈病変 使用機器	☐ バルーン ☐ ステント ☐ その他() 20文字以内
【施行治療手技】で「その他(腕頭・鎖骨下動脈、腹腔・腸間膜動脈等)」を選択した場合に右記を記入する。	EVT 適応	☐ 症候 ☐ 無症候
	EVT(その他) 治療部位	☐ 腕頭・鎖骨下動脈 ☐ 腹腔・腸間膜動脈 ☐ その他() 20文字以内
	EVT(その他) イメージング	☐ 無 ☐ IVUS ☐ OCT/OFDI ☐ 血管内視鏡
	EVT(その他) 成否 成功定義: 狭窄・閉塞病変治療: 残存狭窄<30%未満及び血流低下を伴う血管解離なし 塞栓治療: 血流低下もしくは消失	☐ 成功 ☐ 不成功
	【EVT(その他) 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 EVT(その他) 不成功理由	☐ ワイヤー不通過 ☐ デバイス不通過 ☐ 拡張不良 ☐ 手技中合併症 ☐ その他

	EVT(その他) 使用機器	☐ バルーン ☐ ステント ☐ 機械的血栓吸引(末梢血管用血栓吸引 [Indigo]) ☐ 用手的血栓吸引(その他) (_____) 20文字以内(非必須) ☐ その他(_____) 20文字以内
【施行治療手技】で「PTA(シャント)」を選択した場合に右記を記入する。	シャント	☐ 自己血管(AVF) ☐ 人工血管(AVG)
	シャント吻合部位	☐ 前腕 ☐ 上腕 ☐ その他(_____) 20文字以内
	対象病変局在	AVFの場合: ☐ 吻合部 ☐ 中心静脈(鎖骨下静脈より中枢) ☐ その他 AVGの場合: ☐ 動脈吻合部近傍 ☐ 静脈吻合部近傍 ☐ グraft内 ☐ 中心静脈(鎖骨下静脈より中枢) ☐ その他
	シャント成否 成功定義: 残存狭窄<30%未満及び血流低下を伴う血管解離なし	☐ 成功 ☐ 不成功
	【シャント 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 シャント 不成功理由	☐ ワイヤー不通過 ☐ デバイス不通過 ☐ 拡張不良 ☐ 手技中合併症 ☐ その他
	【シャント 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 シャント使用機器	☐ バルーン ☐ スコアリングバルーン(カッティングを含む) ☐ 薬物塗布バルーン ☐ ペアメタルステント ☐ 薬物塗布ステント ☐ ステントグラフト ☐ その他(_____) 20文字以内
【施行治療手技】で「静脈疾患」を選択した場合に右記を記入する。	静脈病変 疾患	☐ 深部静脈血栓症(急性期) ☐ 静脈血栓後症候群 ☐ 悪性腫瘍 ☐ 肺動脈血栓塞栓症
	静脈病変 性状	☐ 狭窄 ☐ 閉塞
	静脈病変 イメージング	☐ 無 ☐ IVUS ☐ OCT/OFDI ☐ 血管内視鏡
	静脈病変 成否 成功定義: 残存狭窄<30%未満及び血流低下を伴う血管解離なし	☐ 成功 ☐ 不成功
	【静脈成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 静脈病変 不成功理由	☐ ワイヤー不通過 ☐ デバイス不通過 ☐ 拡張不良 ☐ 手技中合併症 ☐ その他
	【静脈成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 静脈病変 使用機器	☐ バルーン ☐ ステント ☐ 吸引 ☐ 下大静脈フィルター ☐ その他(_____) 20文字以内

【施行治療手技】で「EVT(腹腔動脈)」、「EVT(脾動脈)」、「EVT(腎動脈)」、「EVT(脾アーケード)」、「EVT(上腸間膜動脈)」、「EVT(腸骨動脈瘤)」、「EVT(その他の動脈瘤)」を選択した場合に右記を記入する。	動脈瘤 機器の選択	☐ コイル塞栓術 ☐ カバードステント ☐ 両方
	動脈瘤 コイル塞栓術の場合、その方法	☐ Isolation ☐ 瘤内バッキング ☐ 両方

NationalClinicalDatabase
J-EVT/SHD (SHD)

手技情報(Ⅲ)

【施行治療手技】で「PTMC」を選択した場合に右記を記入する。	PTMC 使用バルーン径 複数使用の場合は、大きい方の標準径	[] mm (小数点一桁,0.0-999.9)
	Wilkins Score	[] (整数,4-16)
	PTMC 成否 成功定義:バルーンを意図した部位で安定して拡張させた (satisfactory balloon inflation)	☐ 成功 ☐ 不成功
	【PTMC 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 PTMC 不成功理由	[]
	【PTMC 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 MR術前術後	前 ☐ none ☐ trivial ☐ mild ☐ moderate ☐ severe 後 ☐ none ☐ trivial ☐ mild ☐ moderate ☐ severe
	【PTMC 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PTMC 弁口面積	前 [] cm2 後 [] cm2 (小数点一桁,0-99)
【施行治療手技】で「BAV(大動脈弁)」を選択した場合に右記を記入する。	Approach	☐ Antegrade ☐ Retrograde
	BAV 使用バルーン径 複数使用の場合は、大きい方の標準径	[] mm (小数点一桁,0.0-999.9)
	AR術前術後	前 ☐ none ☐ trivial ☐ mild ☐ moderate ☐ severe 後 ☐ none ☐ trivial ☐ mild ☐ moderate ☐ severe
	BAV 理由	☐ SAVRへのブリッジ ☐ TAVRへのブリッジ ☐ 姑息的 (palliative/destination) ☐ 心肺蘇生、ショックなど (salvage) ☐ 非心臓手術術前処置
	BAV 成否 成功定義:バルーンを意図した部位で安定して拡張させた (satisfactory balloon inflation)	☐ 成功 ☐ 不成功
	【BAV 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 BAV 不成功理由	[]
	【BAV 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 AV 圧格差 (mean)	前 [] mmHg 後 [] mmHg (整数,0-999)
【施行治療手技】で「PTPV(肺動脈弁)」を選択した場合に右記を記入する。	PTPV 成否 成功定義:バルーンを意図した部位で安定して拡張させた (satisfactory balloon inflation)	☐ 成功 ☐ 不成功
	【PTPV 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 PTPV 不成功理由	[]
	【PTPV 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PTPV 圧較差 (平均)	前 [] mmHg 後 [] mmHg (整数,0-999)
	【PTPV 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PTPV バルーン使用方法	☐ シングル ☐ ダブル ☐ トリプル
	【PTPV 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PTPV バルーン径	[]mm (小数点一桁,0.0-99.9)
	BPA 成否 成功定義:バルーンを意図した部位で安定して拡張させた (satisfactory balloon inflation)	☐ 成功 ☐ 不成功
	【BPA 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 BPA 不成功理由	[]
	【BPA 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 BPA 特異的合併症	☐ 肺出血(要処置;ECMO) ☐ 肺出血(要処置;気管挿管) ☐ 肺出血(要処置;NPPV[予定外]) ☐ 肺出血(血痰・喀血のみ) ☐ 肺障害(画像上の新規浸潤影) ☐ なし

【施行治療手技】で「BPA(肺動脈)」を選択した場合に右記を記入する。	【BPA 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 BPA 施行回数	[]回目 (整数,1-20)
	【BPA 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 外科手術が行えなかった理由	☐ 血栓到達不可 ☐ 施設へのアクセスが不可 ☐ 患者拒否 ☐ 手術高リスク
	【BPA 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 薬剤の使用	☐ GC 刺激薬 ☐ Prostacyclin Analogue ☐ ET 拮抗薬 ☐ PDF V 阻害薬 ☐ その他
	【BPA 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 在宅酸素療法の有無	☐ 有 ☐ 無
	【BPA 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 最終セッションの予定である 予定していたBPAのセッションが全て終了した場合「はい」を記入	☐ はい ☐ いいえ
	【最終セッションの予定である】で「はい」が選ばれた場合に記入。 最終BPA後のNYHA分類	☐ I ☐ II ☐ III ☐ IV
	【最終セッションの予定である】で「はい」が選ばれた場合に記入。 最終BPA後の平均肺動脈圧	[] mmHg (整数,1-100)
	PA圧 (mean) 手技前後を記載	前 [] mmHg 後 [] mmHg (整数,0-999)
【施行治療手技】で「PTSMA」を選択した場合に右記を記入する。	PTSMA 成否 成功定義:アルコールを意図した血管に注入した	☐ 成功 ☐ 不成功
	【PTSMA 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 PTSMA 不成功理由	[]
	【PTSMA 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 術前の薬物療法	☐ β遮断薬 ☐ Ca拮抗薬 ☐ I群抗不整脈薬 ☐ ミオシン阻害薬 ☐ その他
	【PTSMA 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 使用バルーン径	[] mm (小数点一桁,0.0-99.9)
	【PTSMA 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 使用エタノール数 (cc)	[] cc (小数点一桁,0.0-99.9)
	【PTSMA 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PTSMA 圧較差(安静時)	前 [] mmHg 後 [] mmHg (整数,0-999) ☐ 施行せず
	PTSMA特異的合併症	☐ なし ☐ 恒久的ペースメーカー留置 ☐ 治療を要する心室頻拍/心室細動 ☐ 意図しない血管へのアルコール注入
	術前の薬物療法	☐ ACE阻害薬/ARB/ARNI ☐ β遮断薬 ☐ MRA ☐ SGLT2阻害薬 ☐ Tolvaptan ☐ その他の利尿薬 ☐ 上記以外
	心不全入院の有無	☐ なし ☐ 手技前1ヶ月以内 ☐ 1-12ヶ月の間 ☐ 12ヶ月以上前
	MRの原因 ハートチームの判断として主たるもの	☐ 器質性 ☐ 機能的 ☐ 混合性

【施行治療手技】で「M-TEER」が選ばれた場合に右記を記入する。	術前LVEF 検査の種別は問わない	☐ <20% ☐ 20-50% ☐ 50% <
	M-TEER成否 成功定義: Clipping の成功	☐ 成功 ☐ 不成功
	【M-TEER成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 M-TEER不成功理由	[]
	【M-TEER成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 M-TEERの個数	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4
	【M-TEER成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 M-TEER使用デバイス	☐ NT ☐ NTW ☐ XT ☐ XTW ☐ PASCAL ☐ PASCAL Ace
	【M-TEER成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 M-TEERM程度	前 [none / mild / moderate / severe] 後 [none / mild / moderate / severe]
	M-TEER特異的合併症	☐ なし ☐ 心タンポナーデ ☐ SLDA ☐ Learlet tear ☐ Mitral stenosis (mPG>10mmHg) ☐ iASD (閉鎖術適応) ☐ disabling stroke ☐ その他() 100文字以内
	ASD閉鎖術 目的・対象疾患	☐ ASD(II) ☐ iASD
	ASD閉鎖術 適応 術前のカテーテルまたは心エコー検査で算出した値を記入	Qp/Qs () (小数点一桁,0-99.9) ☐ 計測せず
	【ASD閉鎖術 目的・対象疾患】で「ASD (II)」が選ばれた場合に記入。 ASD Rim欠損部位 <5mm	☐ SVC ☐ Aortic ☐ Mitral ☐ Coronary Sinus ☐ IVC ☐ Posterior ☐ なし
	【ASD閉鎖術 目的・対象疾患】で「iASD」が選ばれた場合に記入。 iASDの原因手技	☐ M-TEER ☐ PTMC ☐ TMVI (経カテーテル僧帽弁留置術) ☐ LAAO ☐ 心筋焼灼術(アブレーション) ☐ その他() 100文字以内
	【ASD閉鎖術 目的・対象疾患】で「iASD」が選ばれた場合に記入。 iASDの閉鎖理由	☐ 右心負荷(LRシャント) ☐ 低酸素血症(RLシャント) ☐ ショック/ 血行動態不良 ☐ 奇異性塞栓症 ☐ その他() 100文字以内
	ASD術前径	短軸径 [] × 長軸径 [] mm (整数,0-99)
	ASD閉鎖術-麻酔	☐ 全身麻酔 ☐ 局所麻酔
	ASD 閉鎖時イメージングデバイス	☐ TEE ☐ ICE
	ASD閉鎖術 成否 成功定義: デバイスを意図した部位に留置した (satisfactory device positioning)	☐ 成功 ☐ 不成功
	【ASD閉鎖術 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 ASD閉鎖術 不成功理由	[]

【施行治療手技】で「ASD閉鎖術」を選択した場合に右記を記入する。	【ASD閉鎖術 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 ASD 使用Device	☐ ASO ☐ ACO ☐ FSO(Occlutech) ☐ GCA ☐ GSO ☐ その他
	【ASD 使用Device】で「ASO」が選ばれた場合に記入。 ASO 留置Device個数	☐ 0個 ☐ 1個 ☐ 2個 ☐ 3個
	【ASD 使用Device】で「ACO」が選ばれた場合に記入。 ACO 留置Device個数	☐ 0個 ☐ 1個 ☐ 2個 ☐ 3個
	【ASD 使用Device】で「FSO」が選ばれた場合に記入。 FSO 留置Device個数	☐ 0個 ☐ 1個 ☐ 2個 ☐ 3個
	【ASD 使用Device】で「GCA」が選ばれた場合に記入。 GCA 留置Device個数	☐ 0個 ☐ 1個 ☐ 2個 ☐ 3個
	【ASD 使用Device】で「GSO」が選ばれた場合に記入。 GSO 留置Device個数	☐ 0個 ☐ 1個 ☐ 2個 ☐ 3個
	【ASO留置Device個数】で「1個」または「2個」または「3個」が選ばれた場合に記入。 ASO使用Device size 1個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)
	【ASO留置Device個数】で「2個」または「3個」が選ばれた場合に記入。 ASO使用Device size 2個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)
	【ASO留置Device個数】で「3個」が選ばれた場合に記入。 ASO使用Device size 3個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)
	【ACO留置Device個数】で「1個」または「2個」または「3個」が選ばれた場合に記入。 ACO使用Device size 1個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)
	【ACO留置Device個数】で「2個」または「3個」が選ばれた場合に記入。 ACO使用Device size 2個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)
	【ACO留置Device個数】で「3個」が選ばれた場合に記入。 ACO使用Device size 3個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)
	【FSO留置Device個数】で「1個」または「2個」または「3個」が選ばれた場合に記入。 FSO使用Device size 1個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)
	【FSO留置Device個数】で「2個」または「3個」が選ばれた場合に記入。 FSO使用Device size 2個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)
	【FSO留置Device個数】で「3個」が選ばれた場合に記入。 FSO使用Device size 3個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)
	【GCA留置Device個数】で「1個」または「2個」または「3個」が選ばれた場合に記入。 GCA使用Device size 1個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)
	【GCA留置Device個数】で「2個」または「3個」が選ばれた場合に記入。 GCA使用Device size 2個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)
	【GCA留置Device個数】で「3個」が選ばれた場合に記入。 GCA使用Device size 3個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)
	【GSO留置Device個数】で「1個」または「2個」または「3個」が選ばれた場合に記入。 GSO使用Device size 1個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)
	【GSO留置Device個数】で「2個」または「3個」が選ばれた場合に記入。 GSO使用Device size 2個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)
【GSO留置Device個数】で「3個」が選ばれた場合に記入。 GSO使用Device size 3個目	デバイスサイズ [] mm (小数点一桁 ,0-99.9)	

	ASD特異的合併症	☐ なし ☐ 心タンポナーデ ☐ 心侵食(Erosion) ☐ デバイス脱落 ☐ Ⅱ度以上の房室ブロック(24時間以上持続するもの) ☐ 空気塞栓 ☐ 治療を要する新規発症 心房細動/心房頻拍 ☐ 治療を要する 心室頻拍/心室細動 ☐ その他
	PFO閉鎖術 目的・対象疾患	☐ 脳梗塞再発予防 ☐ 低酸素血症 ☐ その他「 」
	PFO閉鎖術 既往症及び併存疾患 脳梗塞再発予防を目的としたPFO閉鎖術の場合、直近の脳梗塞以前に脳梗塞の既往があった場合に「脳梗塞」を選択	☐ 脳梗塞 ☐ 出血性脳卒中(脳出血・くも膜下出血) ☐ 片頭痛 ☐ 心内膜炎 ☐ 下肢静脈血栓 ☐ 肺塞栓 ☐ 心房中隔欠損症 ☐ 肺動静脈瘻 ☐ 上記疾患なし
	【PFO閉鎖術 目的・対象疾患】で「脳梗塞再発予防」を選択した場合に記入 PFO閉鎖術 脳梗塞発症日	☐ 西暦「 」年「 」月 ☐ 不明 ※今回のPFO閉鎖術施行の契機となった脳梗塞
	【PFO閉鎖術 目的・対象疾患】で「脳梗塞再発予防」を選択した場合に記入 PFO閉鎖術 脳梗塞発症前の抗血小板薬・抗凝固薬	☐ なし ☐ アスピリン ☐ チエノピリジン ☐ シロスタゾール ☐ その他の抗血小板薬 ☐ ワルファリン ☐ DOAC ☐ 不明 ※今回のPFO閉鎖術施行の契機となった脳梗塞発症前に内服していた抗血小板薬・抗凝固薬
	【PFO閉鎖術 目的・対象疾患】で「脳梗塞再発予防」を選択した場合に記入 PFO閉鎖術 脳梗塞再発予防の推奨基準該当	☐ 解剖学的・機能的ハイリスクPFO ☐ 抗血栓療法施行下 脳梗塞再発症例 ☐ 上記推奨基準に該当せず
	【PFO閉鎖術 目的・対象疾患】で「脳梗塞再発予防」を選択した場合に記入 RoPEスコア	☐ 「 」点 ☐ 測定せず
	PFOシャント評価	☐ TEE ☐ TTE ☐ TCD ☐ ICE ☐ 未評価
	【PFOシャントグレード評価】で「TEE、またはICE」を選択した場合に記入 シャントグレード(TEE/ICE)	☐ 安静時右左シャントあり ☐ グレード 0 ☐ グレード 1 ☐ グレード 2 ☐ グレード 3
	【PFOシャントグレード評価】で「TTE」を選択した場合に記入 シャントグレード(TTE)	☐ 安静時右左シャントあり ☐ グレード 0 ☐ グレード 1 ☐ グレード 2 ☐ グレード 3 ☐ グレード 4
【PFOシャントグレード評価】で「TCD」を選択した場合に記入 シャントグレード(TCD)	☐ 安静時右左シャントあり ☐ グレード 0 ☐ グレード 1 ☐ グレード 2 ☐ グレード 3	

【施行治療手技】で「PFO閉鎖術」を選択した場合に右記を記入する。	ハイスクリップPFO形態	☐ 心房中隔瘤 ☐ ロングトンネル ☐ 下大静脈弁 (Eustachian valve) ☐ キアリー網 ☐ なし ☐ 未評価
	PFO閉鎖術 成否 成功定義: デバイスを意図した部位に留置した (satisfactory device positioning)	☐ 成功 ☐ 不成功
	【PFO閉鎖術 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 PFO閉鎖術 不成功理由	[]
	【PFO閉鎖術 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PFO使用 Device	☐ APO (PFO occluder) ☐ ACO (Cribiform) ☐ ASO ☐ FFO ☐ GSO ☐ GCA ☐ その他
	【PFO 使用Device】で「APO (PFO occluder) 」を選択した場合に記入 APO使用 Deviceサイズ	☐ 18mm ☐ 25mm ☐ 30mm ☐ 35mm
	【PFO 使用Device】で「ACO (Cribiform) 」を選択した場合に記入 ACO使用 Deviceサイズ	☐ 18mm ☐ 25mm ☐ 30mm ☐ 35mm
	【PFO 使用Device】で「ASO」を選択した場合に記入 ASO使用 Deviceサイズ	デバイスサイズ[_____] mm (小数点一桁,0-99.9)
	【PFO 使用Device】で「FFO」を選択した場合に記入 FFO使用 Deviceサイズ	デバイスサイズ[_____] mm (小数点一桁,0-99.9)
	【PFO 使用Device】で「GSO」を選択した場合に記入 GSO使用 Deviceサイズ	デバイスサイズ[_____] mm (小数点一桁,0-99.9)
	【PFO 使用Device】で「GCA」を選択した場合に記入 GCA使用 Deviceサイズ	デバイスサイズ[_____] mm (小数点一桁,0-99.9)
	PFO閉鎖術-麻酔	☐ 全身麻酔 ☐ 局所麻酔
	【PFO閉鎖術 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PFO 閉鎖時イメージングデバイス	☐ TEE ☐ ICE
	【PFO閉鎖術 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PFO特異的合併症	☐ なし ☐ 心タンポナーデ ☐ 心侵食 (Erosion) ☐ デバイス脱落 ☐ Ⅱ度以上の房室ブロック (24時間以上持続するもの) ☐ 空気塞栓 ☐ 治療を要する新規発症 心房細動/心房頻拍 ☐ 治療を要する 心室頻拍/心室細動 ☐ その他
【PFO特異的合併症】で「治療を要する新規発症 心房細動/心房頻拍」が選ばれた場合に記入。 心房細動・心房粗動詳細 術後～退院時まで	☐ なし ☐ 一過性 ☐ 持続性	
【PFO閉鎖術 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PFO閉鎖術-退院時抗血小板薬・抗凝固薬の種類	☐ アスピリン ☐ チエノピリジン ☐ シロスタゾール ☐ その他の抗血小板薬 ☐ ワルファリン ☐ DOAC ☐ なし	

【施行治療手技】で「PDA閉鎖術」を選択した場合に右記を記入する。	PDA閉鎖術 適応 術前のカテーテル検査で算出した値を記入	Qp/Qs () (小数点一桁,0-99) ○計測せず
	PDA閉鎖術 成否 成功定義: デバイスを意図した部位に留置した (satisfactory device positioning)	○成功 ○不成功
	【PDA閉鎖術 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 PDA閉鎖術 不成功理由	[]
	【PDA閉鎖術 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PDA閉鎖術 Device種類	○ADO I ○ADO II ○AVP II ○Piccolo ○コイル ○その他
	【PDA閉鎖術 Device種類】で「コイル」か「その他」が選ばれた場合に記入。 PDA閉鎖術 Deviceサイズ	☐ 5/4 ☐ 6/4 ☐ 8/6 ☐ 10/8 ☐ 12/10 ☐ 14/12 ☐ 16/14 ☐ その他
	【PDA閉鎖術 Device種類】で「ADO I」が選ばれた場合に記入。 PDA閉鎖術 Deviceサイズ ADO I	☐ 5/4 ☐ 6/4 ☐ 8/6 ☐ 10/8 ☐ 12/10 ☐ 14/12 ☐ 16/14
	【PDA閉鎖術 Device種類】で「ADO II」が選ばれた場合に記入。 PDA閉鎖術 Deviceサイズ ADO II	☐ 3/4 ☐ 3/6 ☐ 4/4 ☐ 4/6 ☐ 5/4 ☐ 5/6 ☐ 6/4 ☐ 6/6
	【PDA閉鎖術 Device種類】で「AVP II」が選ばれた場合に記入。 PDA閉鎖術 Deviceサイズ AVP II	☐ 3/6 ☐ 4/6 ☐ 6/6 ☐ 8/7 ☐ 10/7 ☐ 12/9 ☐ 14/10 ☐ 16/12 ☐ 18/14 ☐ 20/16 ☐ 22/18
	【PDA閉鎖術 Device種類】で「Piccolo」が選ばれた場合に記入。 PDA閉鎖術 Deviceサイズ Piccolo	☐ 3/2 ☐ 3/4 ☐ 3/6 ☐ 4/2 ☐ 4/4 ☐ 4/6 ☐ 5/2 ☐ 5/4 ☐ 5/6
【施行治療手技】で「PDA閉鎖術」(類似用語注意)が選ばれた場合に記入。 PDA特異的合併症	○なし ☐ 脱落 ☐ 位置移動 ☐ 肺動脈狭窄/閉塞 ☐ 大動脈狭窄/閉塞 ☐ 大動脈解離 ☐ その他() 30文字以内	
PVL閉鎖適応	☐ 溶血性貧血 ☐ 心不全	
PVL閉鎖アプローチ	☐ TF ☐ TA	

【施行治療手技】で「PVL閉鎖術」を選択した場合に右記を記入する。	PVL閉鎖対象弁	☐ 僧帽弁 ☐ 大動脈弁 ☐ 三尖弁 ☐ 肺動脈弁
	PVL閉鎖対象人工弁	☐ 機械弁 ☐ 生体弁
	PVL閉鎖-麻酔	☐ 全身麻酔 ☐ 局所麻酔
	PVL閉鎖時イメージングデバイス	☐ TEE ☐ TTE ☐ ICE
	PVL閉鎖 成否 逆流グレード、2度以上の改善	☐ 成功 ☐ 不成功
	【PVL閉鎖 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 PVL閉鎖 不成功理由	[]
	【PVL閉鎖 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PVL閉鎖デバイス数 PLD	PLD: ☐ 1個 ☐ 2個 ☐ 3個 ☐ 4個 ☐ 5個
	【PVL閉鎖 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PLDデバイスサイズ	1個目(OW OT) サイズ (整数 x)mm 2個目(OW OT) サイズ (整数 x)mm 3個目(OW OT) サイズ (整数 x)mm 4個目(OW OT) サイズ (整数 x)mm 5個目(OW OT) サイズ (整数 x)mm
	【PVL閉鎖 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PVL閉鎖デバイス その他 「その他のデバイス」がある場合は、100字以内でデバイス名・サイズを記載する	☐ なし ☐ あり()
	【PVL閉鎖デバイス その他】で「あり」が選ばれた場合に記入。 PVL閉鎖デバイス数 その他	☐ 1個 ☐ 2個 ☐ 3個 ☐ 4個 ☐ 5個
	【PVL閉鎖対象弁】で「僧帽弁」が選ばれた場合、かつ【PVL閉鎖 成否】で「PVL閉鎖術 成功」が選ばれた場合に記入。 留置デバイス数 僧帽弁	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5
	【PVL閉鎖対象弁】で「大動脈弁」が選ばれた場合、かつ【PVL閉鎖 成否】で「PVL閉鎖術 成功」が選ばれた場合に記入。 留置デバイス数 大動脈弁	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5
	【PVL閉鎖対象弁】で「三尖弁」が選ばれた場合、かつ【PVL閉鎖 成否】で「PVL閉鎖術 成功」が選ばれた場合に記入。 留置デバイス数 三尖弁	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5
【PVL閉鎖対象弁】で「肺動脈弁」が選ばれた場合、かつ【PVL閉鎖 成否】で「PVL閉鎖術 成功」が選ばれた場合に記入。 留置デバイス数 肺動脈弁	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5	
【PVL閉鎖対象弁】で「僧帽弁」が選ばれた場合、かつ【PVL閉鎖 成否】で「PVL閉鎖術 成功」が選ばれた場合に記入。 デバイス留置位置 僧帽弁	☐ lateral ☐ medial ☐ anterior ☐ posterior	

	【PVL閉鎖対象弁】で「大動脈弁」が選ばれた場合、かつ【PVL閉鎖 成否】で「PVL閉鎖術 成功」が選ばれた場合に記入。 デバイス留置位置 大動脈弁	☐ lateral ☐ medial ☐ anterior ☐ posterior
	【PVL閉鎖対象弁】で「三尖弁」が選ばれた場合、かつ【PVL閉鎖 成否】で「PVL閉鎖術 成功」が選ばれた場合に記入。 デバイス留置位置 三尖弁	☐ lateral ☐ medial ☐ anterior ☐ posterior
	【PVL閉鎖対象弁】で「肺動脈弁」が選ばれた場合、かつ【PVL閉鎖 成否】で「PVL閉鎖術 成功」が選ばれた場合に記入。 デバイス留置位置 肺動脈弁	☐ lateral ☐ medial ☐ anterior ☐ posterior
	【PVL閉鎖 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PVL逆流グレード: TEE評価	前 ☐ none ☐ mild ☐ moderate ☐ severe 後 ☐ none ☐ mild ☐ moderate ☐ severe
	PVL特異的合併症	☐ なし ☐ 心タンポナーデ ☐ 人工弁との干渉 ☐ デバイス脱落 ☐ 房室ブロック ☐ 脳梗塞 ☐ iASD (閉鎖適応) ☐ その他 () 100文字以内
	【PVL閉鎖 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 PVL閉鎖術-退院時抗血小板薬・抗凝固薬の種類	☐ アスピリン ☐ チエノピリジン ☐ シロスタゾール ☐ その他の抗血小板薬 ☐ ワルファリン ☐ DOAC ☐ なし
【施行治療手技】で「LAA閉鎖」を選択した場合に右記を記入する。	LAA閉鎖 適応	☐ 出血ハイリスク ☐ 脳梗塞再発予防 (抗凝固無効) ☐ その他
	CHA2DS2Vasc	[] 点 (整数値,0-9)
	HASBLED	[] 点 (整数値,0-8)
	LAA閉鎖 治療前抗血栓薬	☐ なし ☐ aspirin ☐ thienopyridine ☐ DAPT ☐ AC(ワルファリン) ☐ AC(DOAC) ☐ SAPT+AC ☐ DAPT+AC ☐ その他
	LAA形態	☐ Chicken Wing ☐ Windsock ☐ Cactus ☐ Cauliflower ☐ 評価不能 ☐ その他 () 30文字以内
	LAA閉鎖 成否	☐ 成功 ☐ 不成功
	【LAA閉鎖 成否】で「不成功」が選ばれた場合に記入。 LAA閉鎖 成否 不成功理由	☐ position ☐ anchor ☐ size ☐ seal ☐ migration ☐ その他
	【LAA閉鎖 成否 不成功理由】で「その他」が選ばれた場合に記入。 LAA閉鎖 成否 不成功理由 その他	[]
	【LAA閉鎖 成否】で「成功」が選ばれた場合に記入。 LAA閉鎖 留置デバイス	☐ WATCHMAN FLX ☐ WATCHMAN FLX Pro ☐ Amulet

	【LAA閉鎖 留置デバイス】で「WATCHMAN FLX」が選ばれた場合に記入。 LAA閉鎖 留置デバイス WATCHMAN FLX	☐ 20mm ☐ 24mm ☐ 27mm ☐ 31mm ☐ 35mm
	【LAA閉鎖 留置デバイス】で「WATCHMAN FLX Pro」が選ばれた場合に記入。 LAA閉鎖 留置デバイス WATCHMAN FLX Pro	☐ 21mm ☐ 24mm ☐ 27mm ☐ 31mm ☐ 35mm ☐ 40mm
	【LAA閉鎖 留置デバイス】で「Amulet」が選ばれた場合に記入。 LAA閉鎖 留置デバイス Amulet	☐ 16mm ☐ 18mm ☐ 20mm ☐ 22mm ☐ 25mm ☐ 28mm ☐ 31mm ☐ 34mm
	残留ジェット	☐ なし ☐ ＜ 5.0mm ☐ 5.0mm 以上
	LAAO特異的合併症	☐ なし ☐ 心タンポナーデ ☐ デバイスの移動 ☐ デバイス脱落 ☐ 左心不全/肺うっ血 ☐ 脳梗塞 ☐ iASD (閉鎖適応) ☐ その他() 100文字以内